

# 普及だより

第138号 令和2年10月  
茨城県 鹿行農林事務所  
行方地域農業改良普及センター  
電話 0299(72)0256  
FAX 0299(72)1690

## ～行方かんしょの更なる飛躍を目指して～

かんしょの作付け拡大支援

かんしょは、茨城県が作付面積、収穫量とも全国第2位の作物であり、青果用途では全国第1位の産出額を誇る本県を代表する農作物です（いずれも平成30年産実績）。

こうした中、県ではかんしょトップ産地としての地位を揺るぎないものにするため、昨年度より「かんしょトップランナー産地拡大事業」を開始し、荒廃農地等を再生してかんしょの作付けを拡大させています。行方普及センター管内では、令和元年度に約3haの耕作放棄地・荒廃農地が再生され、今年度より新たに約21haがかんしょ畑として作付けされました。今年梅雨時期の長雨があり、日照不足によってかんしょの肥大が遅れていましたが、梅雨明け後の生育は順調で収穫が期待されます（写真1）。

なお、事業活用には諸条件がありますので、事業活用ご希望の方は、行方普及センター又は鹿行農林事務所企画調整課（電話：02911-

3316285）までご連絡下さい。



（写真1）

「行方かんしょ」は欧米へ

平成29年度より、JAなめがたしおさい（当時はJAなめがた）ではカナダへのかんしょ輸出を開始しました。それ以前にも東南アジアへの輸出は実施しておりましたが、欧米への輸出は初めてでした。「行方かんしょ」は味の良さから現地で好評を得ており、カナダへの輸出は昨年32tに達しました。カナダ向けは船便で約一ヶ月かかるため、輸出開始当初はカビの発生が問題となりました。しかし、輸送用段ボールの改善や品質保持シートの活用により問題を解決してきました。

令和元年夏には、新たな輸出先を求めJA甘藷部会連絡会会長がフランスに渡り、現地の料理人やパティシエ等に「行方かんしょ」のPRを実施しました。反応は上々で、今後はヨーロッパへの輸出も期待されます。

「基腐病」に注意！

2018年、沖縄県、鹿児島県、宮崎県において、かんしょ地上部の立枯れ症状及び地下部の腐敗症状が確認されました。発生当初は過去に未確認の症状ということで病名がありませんでしたが、その後「基腐病」と名付けられました。症状の特徴としては、地際の茎が黒変し、地上部が萎凋、枯死します（写真2）。枯死した植物体上に微小な黒色の分生子殻が形成され、塊根は成り首からゆつくりと腐敗します（写真3）。病原菌は特定されており（ホモプシス属糸状菌の一種）、農薬も現在3種類が登録されていますが、特效薬はないのが現状です。



（写真3）



（写真2）

茨城県での発生は現時点で確認されていませんが、万が一にも産地に基腐病が侵入した際に、発生拡大を防ぐためには発生初期の封じ込めが非常に重要です。疑わしいと思われる症状を見かけましたら、普及センターにご連絡をお願いします。（写真2、3は、農研機構九州沖縄農業研究センター小林有紀氏提供）

～台風被害防止のため農業用ハウスの強靱化を行いましょう～

# 普及だより

## 令和2年度認定 茨城県青年農業士の紹介



原 忠俊さん  
(行方市小貫)

行方市北浦地区において、カンショを主にバレイショ、ニンジン、ゴボウを組み合わせた露地野菜の複合経営を行っています。農業後継者クラブ「なめがた穰会」では2年間副会長を務めました。



東山 裕一さん  
(行方市石神)

良質な農産物の生産に取り組み、今後も、行方地域の農業の発展の担い手として期待されます。

行方市麻生地区において、トマト、キュウリ、シユンギクを中心に、直売所のニーズの高いわさび菜、メロンを組み合わせた複合経営を行っています。

J Aなめがたしおさいメロン部会やハウス部会、青年部などに所属し、行方市農業後継者協議会の副会長を務めます。行方市の後継者の確保育成にも取り組むなど、今後の活躍が期待されます。

## GAPの取組み

令和2年7月にオジマきのご園がJ GAP認証を取得しました。当園では、令和元年9月からJ GAP取得に向け、持続的に安全安心な「ぶなしめじ」の生産と環境に配慮した農場運営を開始し、記帳等の徹底や栽培環境の改善など様々な課題を乗り越え、今回の認証審査に至りました。

園主の小嶋氏は、「GAPを日常的に取り組み、更に将来の経営発展に結びつけられるよう活用していきたい」と話していました。

J Aなめがたしおさいちんげん菜部会GAP部では、茨城県GAP第三者確認制度の第1号の登録から2年が経ち、今年も1年に一度実施することになっている内部監査及び第三者の現地確認を4名の農場で行いました。



オジマきのご園の「ぶなしめじ」

## 農業学園の取組み

行方普及センターでは、新規就農者や就農して間もない農業者を対象に、栽培技術向上、仲間づくりなどを目的とした農業学園を開催しています。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で開催が遅れたものの、7月21日(火)に、開講式および第一回講座を開講することができ、16名の学園生が出席しました。

開講式では、普及センター長から学園生に対して「農業学園で学んだことをそれぞれの経営発展に役立て、経営感覚の優れた農業者に育って欲しい。」とエールが送られました。



続く第一回講座は、地域の先進農家であり、青年農業士なめがた会の会長でもある岡田祐樹氏の圃場で行われました。

現地ではレンコンと水稲を組み合わせた経営について、対話形式で進められ、学園生から多くの質疑があり、活発な意見交換ができました。講座の最後には、岡田氏から学園生に対して「地域の担い手として一緒に行方の農業を盛り上げていって欲しい」という激励の言葉をいただきました。

行方普及センターでは、引き続き農業学園を開催しています。是非お気軽にご参加ください。

### 今後の農業学園の予定

開催時期	講座名
10 / 29	レンコン講座
11 / 17	農業機械講座
12月	農業簿記講座
1月	プロジェクト発表会
1月	行方フォーラム
2月	病害虫・農業講座

～農作物や農業機械の盗難に気をつけましょう～